



## ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

新しい年を迎えて、すでに1ヶ月が過ぎようとしています。今年は世界に平和が戻る年であれ！と願うばかりです。 それにしても今年の雪の少なさには驚愕しますね。私も恵庭に住んで40年近くになりますが、こんなに雪が少ない年は記憶にありません。恵庭のみならず千歳方面でも積雪は平年の2-4割程度とのことで、新千歳空港発着便の大型欠航回数や市街地の除雪回数は激減しているようです。

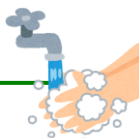


一方で道路の破損が頻発し、スケート大会などの冬のスポーツへの影響も出ているそうです。北海道の他の地域では大雪に見舞われているところもあるようですからまさに異例の事態ですね。例年、年間積雪量は最終的には帳尻が合うと言いますので2月、3月の降雪状況を待つことにしましょう。また屋根の雪下ろしで転落事故がしばしば報告されています。皆で気をつけましょう。(2025/1/27 記)



厚生労働省

新型コロナウイルス感染症について  
[mhlw.go.jp](http://mhlw.go.jp)



消費者庁

新型コロナ関連消費者向け情報  
[caa.go.jp](http://caa.go.jp)



## 循環器内科のご紹介

循環器内科部長・副院長 牧口 展子

### はじめに

当科は心臓や血管疾患を中心に診断・治療を行っている診療科です。  
現在5名体制で、おもに下記の疾患の診断・治療にあたっています。

1. **虚血性心疾患**（心臓の筋肉に栄養を送る血管である冠動脈の動脈硬化、血栓による病気）
2. **不整脈**（徐脈：脈が50回/分未満、頻脈：脈が100回/分以上、脈の不整など）
3. **心臓弁膜症**（心臓にある4つの弁の開きや閉まりが悪くなり機能不全を呈するもの）
4. **末梢血管疾患**（手・足への血管の動脈硬化・血栓による病気）
5. **大動脈疾患**（大動脈が瘤状になる大動脈瘤、血管の壁が裂ける大動脈解離）

最近では高齢化が進み、心不全患者も増加しています。

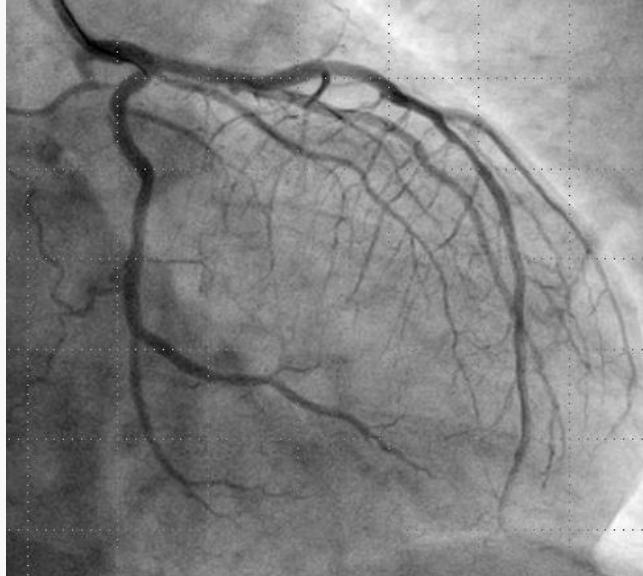
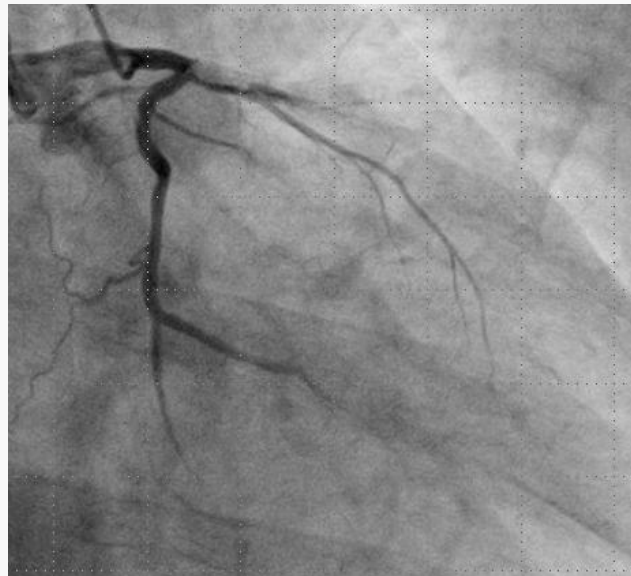
**心不全**とは、心臓のポンプ機能が低下し、全身に十分な血液を送ることができない状態のことを言います。心不全の原因はさまざまであり、先ほどあげた虚血性心疾患、不整脈、弁膜症も心不全の原因となりますので、心不全治療薬を使用しつつ、原因となる心臓の疾患を治療します。

### 代表的な疾患について

#### 1. 狭心症・心筋梗塞

冠動脈に高度の狭窄あるいは閉塞によって生じる病気です。そのサインとして胸部圧迫感などの症状が出現します。急性心筋梗塞は一刻も早く血流の再開が必要ですので、緊急でカテーテル治療が必要です。

症例：急性心筋梗塞（左：冠動脈閉塞 右：カテーテル治療後）



## 病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の**病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止**となっております。  
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

※電子たばこ等も含まれます



恵み野病院ホームページアドレス：<http://megumino.or.jp>

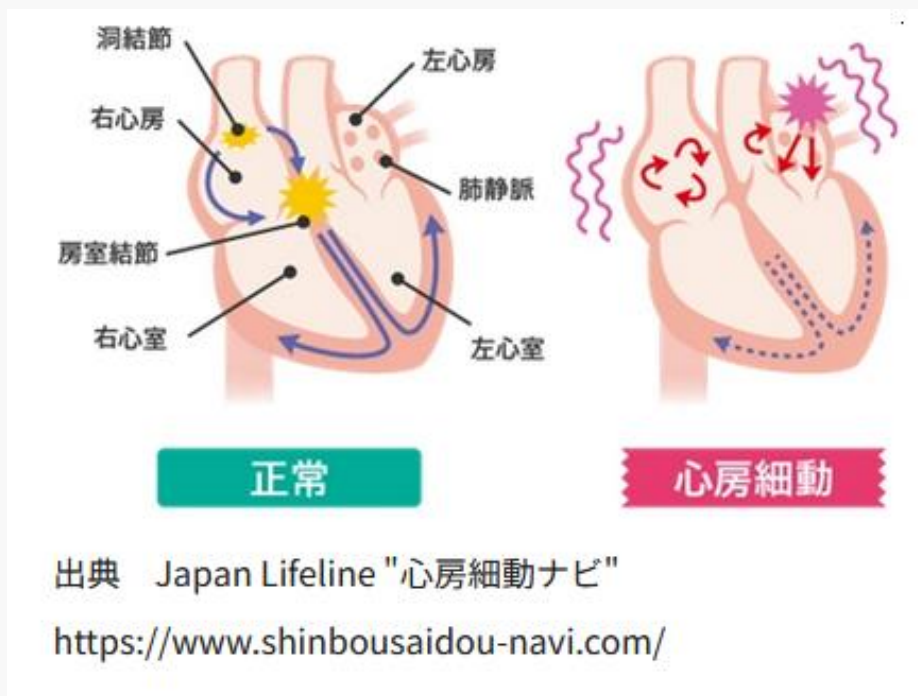


## 2. 心房細動

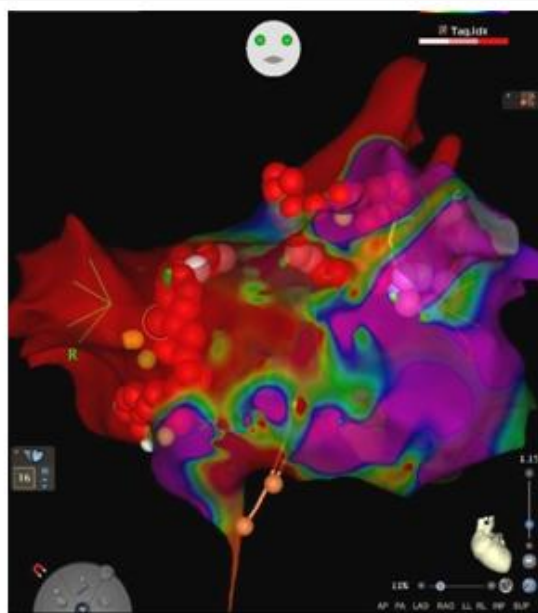
不整脈の一つで、高齢になるほど起きやすくなります。脈拍が不規則で極端に脈が遅くなったり速くなったりすることがあり、心臓内に血栓ができやすくなるため心不全や脳梗塞の原因となり得る不整脈です。認知症との関連もいわれています。

まずは薬物療法を行います。動悸など自覚症状が強い場合や、心不全、脳梗塞予防のために根治治療としてカテーテル治療（経皮的カテーテル心筋焼灼術）を行います。

図：心房細動の発生部位；肺静脈 → 経カテーテル心筋焼灼術（肺静脈隔離術）



左心房の術前CT



## 循環器内科のご紹介(前のページから続きます)

### 3. 徐脈性不整脈(房室ブロック、洞不全症候群)

不整脈のひとつで、心臓内の電気刺激を伝えるシステムに障害をきたし、徐脈(脈が遅い状態)を生じ、めまい、失神などの症状がでます。脈を補助するためにペースメーカー植え込み術が必要になります。リードを心臓内に留置し皮下ポケットに機械を植え込む永久ペースメーカー植え込み術のほか、心臓内に直接留置するリードレスペースメーカー植え込み術もあります。

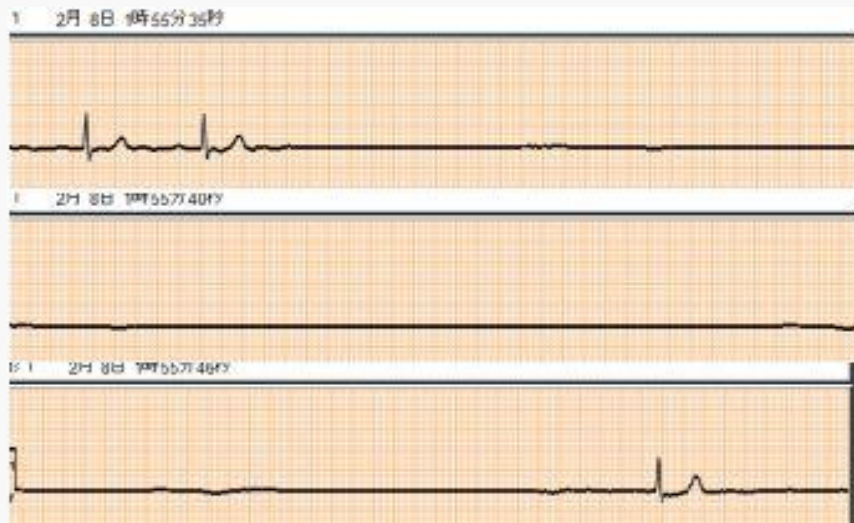
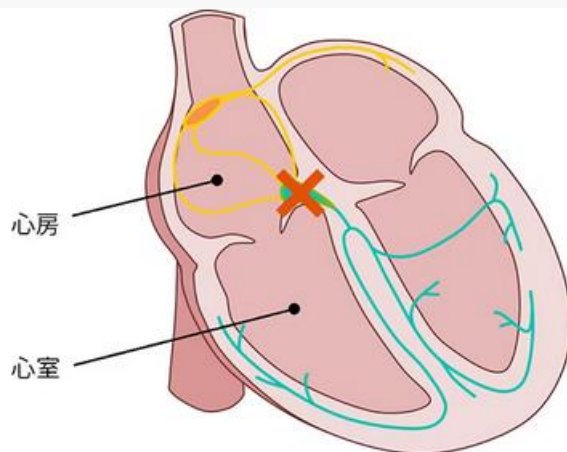


図: リードレスペースメーカー (出典 medtronic社 websiteより)



### 4. 末梢動脈疾患

足の血管の動脈硬化の進行により歩行時の足の冷たさ、だるさ、しびれが生じます(跛行)。薬物治療の他、カテーテル治療も行っております。

#### 心・血管病の予防、早期発見のための心得

・胸が苦しい、動悸など胸の症状を感じる時、歩行時の足のだるさなど感じる時には早めに受診しましょう。症状の回数が増えたり、持続時間が長くなったりするのは危険な徴候です。

・動悸を感じたら検脈(手首の脈を触れる)習慣を持ちましょう。脈の不整、脈が極端に早い、遅いなどあれば受診しましょう。症状があるときに心電図をとると診断が付きやすくなります。普段から血圧計で自分の血圧や脈拍を知ることでも大切です。

・定期的な検診をうけて高血圧症、脂質異常症、糖尿病など生活習慣病に対する早期治療も心血管病の予防に役立ちます。かかりつけ医を持つこと、定期的な運動、規則正しい生活も大切です。

